

## コレクション展 螺 鈿

2015年7月14日(火)～7月26日(日)

8月4日(火)～8月30日(日)

南館2階第16陳列室

鮑や夜光貝など、貝を用いた漆器の装飾は中国・朝鮮半島・日本・タイなど東アジアの諸国で盛んに行われ、地域、時代によって多彩に変化してきた。日本には中国唐時代の優品が正倉院に遺されており、その後も大陸や朝鮮半島から各時代に作品がもたらされ、その影響をうけつつ、また日本固有の蒔絵技法にとりいれられ独特の作風を生み出した。ここでは当館の収蔵品とご寄託の作品のなかから、螺鈿漆器の優品をとりあげてご紹介いたします。

### 1 人物図合子 元～明時代 14世紀 大阪市立美術館

貝を用いた漆器装飾を「螺鈿」と総称する。鮑を薄く切り出して、漆の面に貼り文様を表す手法は元から明にかけて流行し、合子や盆類が多く作られた。

### 2 螺鈿 捻花(ねじばな)文香合「千里」銘 清時代 17世紀

大阪市立美術館(カザールコレクション)

鮑の貝片と、金の板を小さく切り出し、漆器の面に貼りあわせて幾何学的な文様を表したもの。高台裏に中国清初の名工、江千里の銘がある。

### 3 螺鈿 捻花文香合 清時代 18世紀 大阪市立美術館(カザールコレクション)

### 4 螺鈿 幾何文輪花形盆 清時代 18世紀 大阪市立美術館(カザールコレクション)

### 5 螺鈿 樓閣(ろうかく)人物図長方盆 明時代 16世紀 大阪市立美術館(田万コレクション)

### 6 螺鈿 幾何文香合 清時代 18-19世紀 大阪市立美術館(カザールコレクション)

### 7 螺鈿 幾何文香合「乾隆年製」銘 清時代 18世紀 大阪市立美術館(田万コレクション)

### 8 螺鈿 柏(かしわ)文香合 朝鮮時代 18世紀 大阪市立美術館(カザールコレクション)

### 9 螺鈿 樓閣人物図八角食籠(じきろう) 明時代 17世紀 大阪市立美術館(カザールコレクション)

10 螺鈿 樓閣人物図箱 朝鮮時代 17世紀

11 螺鈿 花唐草（はなからくさ）文経箱 桃山時代 16-17世紀 薬師寺

黒漆塗に唐草模様を螺鈿で表す箱。経箱として用いられたものであろうか、奈良薬師寺に伝来した。朝鮮で制作された唐草文と螺鈿の技法を模して、日本で作られたもの。本阿弥光悦が法華経をおさめて寄進した京都本法寺の花唐草文螺鈿経箱など、桃山時代から江戸時代の初期にかけて若干の類例が見られる。

12 螺鈿 牡丹唐草文箱 朝鮮時代 17世紀

黒漆塗に大きな貝片を用いて、牡丹唐草、円文、花文を螺鈿、玳瑁と金属の縹線の象嵌で表す。蓋面の肩を面取りし、蝶番をつけたかたちは人参を収納する箱であったといわれる。大きな貝、一部に用いられた玳瑁、金属の縹り線の使用は、朝鮮時代の螺鈿の特色の一つである。

13 人物図硯屏 明時代 17世紀

巻き貝を表す「螺」と黄金の飾りを表す「鈿」という文字から成る「螺鈿」は、貝を文様に切り、器に貼り込んで、図を表す漆工技法である。語源は中国にさかのぼるが、朝鮮半島、沖縄、日本、ヴェトナム、ミャンマーなど、東アジアの諸地域で広く制作されてきた。螺鈿に使用されている貝の多くは夜光貝と鮑貝で、表皮をはがして研磨し、切り出して用いた。後に貝を煮出し剥離させ、さらに薄くする手法が見いだされた。極薄の貝片を用いた技法は青貝細工ともよばれる。

14 螺鈿 雲龍文 盆 琉球 18-19世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

15 螺鈿 農耕図 皿 清時代 19世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

16 螺鈿 花鳥文 台付杯 タイ 18-19世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

17 螺鈿 樓閣人物図香合 清時代 19世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

18 国宝 菊唐草蒔絵螺鈿手箱 南北朝時代 14世紀 熊野速玉大社

梨子地粉を濃く蒔き、蒔絵と螺鈿で菊唐草を表し、箱の内側には錦で織られた布を貼る。二重の懸け子と、菊唐草蒔絵鏡箱、白銅鏡、白銅鍍金の白粉箱、歯黒箱、薫物箱、櫛などの内容品が納められている。新宮市の熊野速玉大社に、明德元年(1390)足利義満らが奉納したとして伝わる十三合の絵替わり蒔絵手箱のうち一合。手箱は化粧道具など身のまわりの品々を納める箱。中世の作は稀少であるが、本器など神社への奉納品として伝わるものも多い。

19 垣に菊蒔絵螺鈿硯箱 五十嵐道甫 江戸時代 17世紀

金地に高蒔絵と螺鈿で垣根に咲く菊、秋草を表す硯箱。京都の蒔絵師初代五十嵐道甫は江戸時代前期、加賀藩前田家に招かれ金沢に赴き、京蒔絵の技を伝えた。初代五十嵐道甫、二代道甫など五十嵐家の血統は京に戻るが、伝えられた蒔絵の伝統は加賀に根づき、加賀蒔絵として現在に至っている。

20 楨に蜘蛛蒔絵箱 江戸時代 17-18世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

21 八橋（やつはし）螺鈿蒔絵重箱 江戸時代 18世紀

隅切五段、黒漆塗の重箱。蒔絵、螺鈿、金と鉛の金貝を用いてデザイン化した橋を幾重にも重ねる。身の内側には杜若が蒔絵されることが『伊勢物語』の八橋の段を表すものとわかる。橋を多様に意匠することは江戸時代前期以降に小袖模様や蒔絵調度など様々なジャンルで流行した。

22 山水蒔絵硯箱 江戸時代 17世紀 親王院

23 立葵螺鈿蒔絵印籠 伝尾形光琳 江戸時代 18世紀

24 鶏頭螺鈿蒔絵印籠 伝尾形光琳 江戸時代 18世紀

25 人物螺鈿蒔絵印籠 伝尾形光琳（1658-1716） 江戸時代 18世紀

光琳作の蒔絵とか、光琳蒔絵という言葉は古くから使われているが、光琳は図案を提供して、工人を指導していただけなのか、実際に自分で漆を扱ったのか、光琳が漆器制作にどのように関与していたのかは明らかではない。光琳蒔絵の特色は粉溜（ふんだめ）といわれる金地に光琳風の図を、金貝と螺鈿を用いた特色ある様式で表すことと、例えば印籠であれば内側に「法橋光琳造」の銘を蒔絵ではなく針書きで表すことにある。

26 蒔絵螺鈿虫籠形合子 英輝 明治時代 19-20世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

外箱に英輝の銘があることから、大阪の蒔絵師、蔦田英三郎の作と考えることができる。東京国立博物館に収蔵される中山胡民に類似した作風の合子がある。

27 絵馬蒔絵螺鈿香合 江戸時代 19世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

28 蒔絵螺鈿琵琶形香合 明治時代 19-20世紀 大阪市立美術館（カザールコレクション）

- |    |             |         |         |                     |
|----|-------------|---------|---------|---------------------|
| 29 | 薄に撫子蒔絵螺鈿香筆筒 | 江戸時代    | 19世紀    | 大阪市立美術館（カザールコレクション） |
| 30 | 梅蒔絵螺鈿硯箱     | 江戸時代    | 17-18世紀 | 大阪市立美術館（カザールコレクション） |
| 31 | 蒔絵螺鈿瓜形 香合   | 明治時代    | 20世紀    | 大阪市立美術館（カザールコレクション） |
| 32 | 剣巴に鳳凰蒔絵螺鈿香箱 | 江戸時代    | 19世紀    | 大阪市立美術館（田万コレクション）   |
| 33 | 扇面散らし蒔絵螺鈿硯箱 | 江戸時代    | 17世紀    | 大阪市立美術館（田万コレクション）   |
| 34 | 螺鈿寿老人香箱     | 明治時代    | 19世紀    | 大阪市立美術館（カザールコレクション） |
| 35 | 螺鈿大黒図香合     | 江戸～明治時代 | 19世紀    | 大阪市立美術館（カザールコレクション） |